

## 1 通塾まで

長男は、5年生まで自宅で学習しており、塾へはほとんど通っていませんでした。6年になり、最後の仕上げや合格後の友人作りにと大手塾に通いはじめました。通い始めると同時に、拘束時間に対して効果が薄いのではないかと疑問を持ち始めました。そこで、理科塾へ相談に伺ったのが最初です。

奥村先生は、25年ほど前に私が浜学園に通塾しているときに教えていただいた先生でした。現在、先生が理科塾を運営されていることは以前より存じあげておりましたので、思い切って連絡し、相談に伺った次第です。

歴史的経緯から始まり、大手塾の特徴、現在受講している講座の趣旨等をお話しいただき、結論として講座の選択は間違っていないこと、今後起こりうる問題点やそれに対する対処法等、私共が塾生でなかったにもかかわらず、多岐にわたる重要なアドバイスをいただきました。

理科が特段苦手というわけでもありませんでしたが、学力面だけではなく、子供の様子を細かく把握し精神面でもフォローしていただいただけそうだったので、不定期ではありましたが、理科塾にお伺いすることにしました。

## 2 通塾から夏まで

理科塾では、先生が用意してくださる問題をひたすら解いていくというスタンスでした。

問題を解き、間違えばその原因が何なのかを分析し、それを改善するという作業が行なわれていたようです。普段あまり感情を表に出さない長男が、「理科塾行くわ」と、自ら通塾する意思表示をしておりました。理科塾にいる時間は楽しかったのだと思います。

おかげさまで、夏の終わり頃には、理科でも10傑に入り、すべての教科が高いレベルで安定するに至りました。

## 3 秋以降

授業形態が変更され、大手塾へほぼ毎日通塾することになりました。

膨大な量の宿題が出され、一つ一つの問題をじっくり取り組む時間がなくなったせいか、成績も落ち始めました。当初は慣れの問題かと思っておりました。しかし、しばらくしても改善しなかったため、すぐさま先生に相談したところ、どうやら精神面に支障をきたしているとのことでした。そこで、先生のアドバイスにより、大幅に講座を削る決断をしました。通常であればこの時期に大手塾を大幅に削るという決断をするのは難しいと思います。それでも、先生の理路整然としたアドバイスにより決断することができました。

「あのまま無理して大手塾のカリキュラムを続けていれば不合格だっただろう」というのが、入試後の我が家の見解です。

その後は、自宅学習と理科塾での通塾により、受験まで過ごしました。長男の様子ももどに戻り、「5位以内は確実」と言われておりました。

## 4 受験直前期から受験当日

「とにかくお子さんのメンタルを重視してください。学力は十分あります。あえてわがままに過ごさせてあげてください。」と言われ、年末に買い物へいったり、ゲームをしたりする時間を作りました。

受験当日まで、淡々と理科塾と自宅学習で過ごしました。

受験当日。試験問題を解いてる長男、待つしかできない親。

灘、東大寺と3日間にわたって続くこの期間、「受験会場で問題を解いている我が子にしてやれることはもうない」と頭ではわかっているものの、1点でも多くとるために、親として何かできることはないかと探し回ります。当時は二度と経験したくないと思いました。あろうことか、東大寺の試験日に灘の合格発表があります。長男の前では冷静な振りをしておりましたが、全くそうではありませんでした。

そんな中、先生に電話でたくさんのお話しをしていただいて、何とか理性を保てたんだと思っています。

結果、受験校すべて合格でした。灘中の合格発表の帰り道、落ち着くために立ち寄ったロイヤルホストで、コーヒーを飲んでいる際、長男から「ありがとう、無事合格できたわ」と言われ、涙が出てきました。

家族全員大喜びしていたにもかかわらず、理科が思ったほどの点ではなかったためか、先生は「申し訳ありません。」としきりにあやまっておられました。

長男と二人で、「なに言ってんねん、このおっさん。理科塾行ってなかったら落ちてたわ。」と住吉駅で大爆笑してたのはいい思い出です。

## 5 最後に

以上が、灘中1位合格を目指してやってきた私たちの中学受験です。

通常、学習塾で行なわれる勉強は、「できない問題をできるようにするため学ぶ」という学力面に尽きます。

しかし、合格するには、学力に加え、「本番で学力を発揮する」という精神面が必要になります。上記のように、一般的に、学習塾においては学力面が重視される傾向にあります。精神面の考慮もすると謳っているところもありますが、実際に有効な対処がなされているところは多くはありません。

それでも、精神面は学力面と同様かそれ以上に重要なのです。精神面の向上というものは、悪しき習慣と言われる根性論ではなく、子供の精神的安定です。どちらか一方が欠けていると合格できないのです。

理科塾は、一人の先生が子どもの様子を見ながら、問題の質や量をその場で決定し、対処してくれます。これにより、学力面の向上は明らかです。しかし、とにかくやればよいというスタンスではなく、「疲れているようですから、休ませてあげてください。」と子供のケアも行き届いておりま

した。

当初、私は子供の精神面という要素について理解しておりませんでした。しかし、今になって、長男の意思表示やコメントを思い返すと、理科塾は子供にとって理想の塾だったのではないかと考えております。

私のような中学受験の経験者でも苦しむほど、昔と比べても現在の中学受験は過酷なものとなっているようです。受験生全員がほぼ通っていると思われる大手塾での学習だけでは、決して他から抜け出すことができないため、合格確実ライン（10回受けたら10回合格するレベル）まで到達するのは厳しいと思われまます。だからこそ、個別塾の併用が必要になってきます。

保護者は、子供の精神的安定を守る最後の砦です。これこそが「中学受験は半分は親の受験」と言われる所以でしょう。奥村先生は親がどうあるべきか、どうするべきかについてもアドバイスくださいます。

この1年間、中学受験に関わるだけでなく、あらゆる分野について、たくさんのアドバイスをいただきました。子供に接する親の精神面もフォローしてくださっていたのだと思われまます。

以上により、長男が灘中に合格した保護者としてお伝えすることは、「どうしていいかわからない方こそ、奥村先生に相談し、黙って言われたとおりにしてください。」ということです。

ご子息、お嬢様の第一志望合格、お祈り申し上げます。